

# 令和7年11月教育委員会定例会 議事録

日時 令和7年11月5日（水）

場所 県庁行政棟7階「教育委員会室」

令和 7 年 1 1 月 教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 録

開 催 日 時	令和 7 年 1 1 月 5 日（水） 1 3 時 0 0 分
開 催 場 所	長崎県庁行政棟 教育委員会室
出 席 委 員	前川教育長、本田委員、嶋崎委員、芹野委員、松山委員、郷野委員
出 席 職 員	狩野教育政策監、坂口教育次長、井手教育政策課長、山下働きがい推進室長、山崎教育環境整備課長、松尾義務教育課長、熊本義務教育課人事管理監、岩坪高校教育課長、馬木高校教育課人事管理監、田代高校教育課企画監、前田教育DX推進室長、近藤特別支援教育課長、高比良児童生徒支援課長、藤井生涯学習課長、岩尾学芸文化課長、松山体育保健課長
開 会	<p>（前川教育長）</p> <p>それでは定刻になりましたので、ただいまから、1 1 月定例会を開会いたします。皆様にご報告いたします。規則により、緒方貴智外 2 名の傍聴を許可いたしました。傍聴人にあつては、発言はもちろん、私語、談笑、拍手等も禁止されていますのでよろしくお願いします。</p> <p>それでは本日の議事録署名委員を、私から指名させていただきます。議事録署名委員は芹野委員、松山委員の両委員にお願いします。</p>
前回議事録承認	<p>次に、1 0 月定例会の議事録は各委員に送付させていただいておりますが、承認ということでよろしいでしょうか。</p> <p>「異議なし」と呼ぶ者あり</p> <p>（前川教育長）</p> <p>ありがとうございます。ご異議ないようですので前回の議事録等は承認することといたします。それでは、1 0 月分の署名をお願いします。よろしくお願いします。</p> <p>本日提案されている議題等のうち冊子 2 から冊子 4 につきましては、教育委員会の会議の非公開に関する運用規定により、非公開として協議を行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。</p> <p>「異議なし」と呼ぶ者あり</p> <p>（前川教育長）</p> <p>ありがとうございます。ご異議ないようですので、そのように進</p>

<p>教 育 長 報 告</p>	<p>めさせていただきます。</p> <p>では最初に、定例教育委員会１の冊子について審議をいたします。まず、第１７号議案について提案理由の説明をお願いします。</p>
<p>第 １ ７ 号 議 案</p>	<p>(井手教育政策課長)</p> <p>第１７号議案「教育委員会事務事業の点検・評価等について」ご説明いたします。定例教育委員会冊子１の１ページをお開きください。</p> <p>提案理由については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条に基づき、教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、点検・評価を行うものであります。</p> <p>まず、点検・評価についてご説明いたします。資料の２ページをご覧ください。はじめに、参考１の「教育委員会事務事業の点検・評価について」ご説明いたします。地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会は事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、報告書を議会に提出し、公表することが義務付けられております。また、点検・評価にあたっては教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る必要がございます。このため、資料中段になりますが、有識者で構成する長崎県教育振興会議を設置しているところでございます。会議の委員は、資料の３ページ目、参考２に記載しております１０名の方となっており、去る１０月７日に会議を開催いたしました。本日はこの教育振興会議の意見を踏まえ、教育委員会が行う点検・評価の結果を取りまとめることに関し、審議をお願いいたします。</p> <p>資料１「第四期長崎県教育振興基本計画成果指標達成状況」をご覧ください。令和６年度の目標に対する達成状況について掲載しております。表紙の裏面をご覧ください。成果指標は４１項目あります。そのうち、令和６年度の達成状況として、達成率が１００％以上である「達成」が２０項目、達成率が９０％以上である「概ね達成」が１３項目、達成率が９０％未満である「未達成」が７項目、「今年度数値目標なし」が１項目です。「未達成」の７項目については、資料２「第四期長崎県教育振興基本計画成果指標未達成状況調査票」に目標値の設定根拠、未達成の要因分析、今後の取組等を記載しております。</p> <p>続きまして、資料３「令和６年度教育委員会事務事業の点検・評価」をご覧ください。資料を１枚お開きいただいて、「（１）事業群評価の概要」について、次のページの横長の表、教育委員会所管の事業群評価対象事業を記載しております。対象事業は８８事業となっております。右側の表はそれに対する成果指標の達成状況でございます。１つの事業に複数の成果指標を設定しているもの、異なる事業で同一の成果指標を設定しているものがあり、成果指標は８７件となっております。「未達成」でありました１０件につきましては、次ページに掲載ページを記載しており、それぞれ成果指</p>

<p>質 疑</p>	<p>標、取組状況や未達成の要因分析等を記載しております。なお、91ページの次のページから、（２）指定管理者制度導入施設評価の概要を記載しております。</p> <p>最後に資料4「令和7年度長崎県教育振興会議報告書」の1ページをお開きください。教育振興会議において、教育振興基本計画の数値目標や事業群評価指標の進捗状況に対して、各委員の皆様からいただいたご意見と、事務局からの説明について、主なものを記載しております。</p> <p>以上の内容につきまして、本日の教育委員会でご審議いただいた後、議会への報告及び、県教育委員会ホームページでの公表を予定しております。以上、教育委員会事務事業の点検・評価等の説明を終わります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>（前川教育長）</p> <p>これより第17号議案について質疑・討論を行います。ご質問、ご意見等ございませんでしょうか。</p> <p>（芹野委員）</p> <p>長崎県教育振興会議の委員名簿がありますが、結構、学校に関係する方々ばかりだという感じがするのですが、こういう事業をしたときの評価というのは、複数の視点で見る必要があるのかなという気がいたしますので、この辺りは将来的にそういった視点を入れられていくようなことを考えられたらどうかと感じました。</p> <p>（前川教育長）</p> <p>ありがとうございます。おっしゃるとおり、最近は産業界との連携の分野などもだいぶ広がってきておりますので、点検の視点としてはそういったところも今後は必要となってくるかなと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>（芹野委員）</p> <p>資料3の91ページ以降の部分が、いわゆる青少年教育施設の評価の概要になってますが、私も教育委員会で幾つか施設を見させていただいて、結構老朽化が進んでいるところもあるなという感じを持ったのですが、施設を維持していくかどうかということと、事業評価というものは、何らか関連性があるのでしょうか。</p> <p>（井手教育政策課長）</p> <p>毎年度様々な視点から評価をしていると思います。その年、前年度の活動状況もしっかり評価の対象となると思いますけれども、中には長期的な視点もあるとは思いますが、そういったところも踏まえて、評価をしていると認識しております。</p>
------------	--

	<p>(芹野委員)</p> <p>今年の評価がAとBばかりで、特に生涯学習の方はオールAですから、老朽化とか施設維持という観点からは、はたしてこのまま受け取っていいのか、それともこれはこれで全く違う観点なのかなということを少し疑問に感じましたのでお尋ねしたところです。</p> <p>(藤井生涯学習課長)</p> <p>この途中評価については、もちろん施設運営のこともあるかと思いますが、どちらかといいますと、そこで提供されているサービスでありますとか、そういうふうな事業の中身でありますとか、そういったことについて、主に評価をしているところであります。施設についても、当然ご指摘のような課題は抱えているところですが、現在適宜修繕とか、設備の更新を行っているところでもありますので、そういった意味を含めれば、含まれてるというふうなこともいえるかと思いますが、サービスの内容を重点的に評価させていただいてるところであります。</p> <p>(前川教育長)</p> <p>他にございませんでしょうか。</p> <p>———— な し ————</p>
採決	<p>(前川教育長)</p> <p>それでは、質疑、討論をとどめて採決をいたします。</p> <p>第17号議案は原案のとおり可決することにご異議ございませんか。</p> <p>「異議なし」と呼ぶ者あり</p>
可決	<p>(前川教育長)</p> <p>ありがとうございます。ご異議ないものと認めます。</p> <p>よって、第17号議案は原案のとおり可決することに決定されました。</p> <p>次に、第18号議案について提案理由の説明をお願いします。</p>
第18号議案	<p>(岩尾学芸文化課長)</p> <p>冊子1の4ページをご覧ください。第18号議案「文化財の県指定について」提案理由等をご説明します。</p> <p>今回の指定案件は、無形民俗文化財として、平戸市館浦地区に伝わる「館浦の須古踊」を新たな県指定文化財として指定しようとするものであります。</p> <p>5ページをご覧ください。6ページの写真も併せてご覧ください。館浦の須古踊は、生月島南部の館浦集落で、毎年8月に豊漁・</p>

	<p>豊作、家内安全を祈願して行われる伝統行事です。行事は、神社仏閣などで披露される「奉納踊り」と、依頼に応じて個人宅で披露される「ブサタバライ」からなります。奉納踊りでは、槍・挟箱・杖の演技と「中踊り」が披露され、最後に傘鉦が登場します。中踊りは、着物姿で傘をかぶり、扇子や笛を持って唄に合わせてゆっくりと踊るのが特徴で、県内に分布する同様の踊りとともに「須古踊」と呼ばれています。須古踊は、佐賀県白石町須古を発祥とする戦国期から江戸初期の風流踊の系譜をひく芸能であり、館浦には元禄期1700年頃にはすでに伝わっていたとされています。館浦の須古踊の特徴としては、中踊りに加え、大名行列の所作が芸能化した「槍」「挟箱」、武術が芸能化した「杖」が加わっていること、また、中踊りの前に口上を述べる「アビャゴ」は、宗教者を指す「シンボチ」が転訛したもので、須古踊を伝えた宗教者の象徴とされています。傘鉦には神霊が依り憑く神輿のような機能が付加されており、長崎くんちの傘鉦とは異なる古式の特徴を持っています。これらの要素は他の須古踊には見られず、館浦独自の特徴的な文化的価値を有しています。また、未就学児から中高年まで幅広い世代が参加しており、地域全体で伝承への意欲が高く、今後も継続される見通しであります。</p> <p>以上、先日、開催した長崎県文化財保護審議会から答申をいただいております。長崎県指定文化財としてふさわしいと考えております。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。</p>
質 疑	<p>(前川教育長)</p> <p>これより第18号議案について質疑・討論を行います。ご質問、ご意見等ございませんでしょうか。</p> <p>――― な し ―――</p>
採 決	<p>(前川教育長)</p> <p>それでは、質疑、討論をとどめて採決をいたします。</p> <p>第18号議案は原案のとおり可決することにご異議ございませんか。</p> <p>「異議なし」と呼ぶ者あり</p>
可 決	<p>(前川教育長)</p> <p>ありがとうございます。ご異議ないものと認めます。</p> <p>よって、第18号議案は原案のとおり可決することに決定されました。</p> <p>次に、第19号議案について提案理由の説明をお願いします。</p> <p>(岩尾学芸文化課長)</p>

第 19 号 議 案	
	<p>冊子 1 の 7 ページをご覧ください。第 19 号議案「県指定文化財の内容変更について」ご説明します。</p> <p>8 ページをご覧ください。内容変更の対象となるのは、東彼杵町に所在する「キリシタン墓碑（2 基）」になります。今回、東彼杵町教育委員会の求めにより再調査を行っておりますけれども、この文化財は、写真左側の元和 7 年 1621 年銘墓碑と右側の寛永 20 年 1643 年銘墓碑の 2 基で構成されており、昭和 37 年に個人の敷地内に所在したものを県指定史跡として指定した後、平成 13 年 2001 年に東彼杵町へ寄贈され公園へ移設されたことから、県指定有形文化財（歴史資料）に変更して改めて指定した経緯がございます。</p> <p>9 ページをご覧ください。図 2 の元和 7 年銘墓碑は、自然石を用いた立碑で、正面にはキリスト教信仰を象徴する花十字紋が彫られ、その下に「元和七年／一瀬志あ阿ん」と刻まれており、キリシタン墓碑としての典型的な形態を示しております。一方、図 3 の寛永 20 年銘墓碑については、正面に仏教における梵字のキリークが彫り込まれており、図 4 のとおり上部には関東型板碑に見られる 3 段の線刻の痕跡が確認され、仏式塔であると確認されました。</p> <p>また、県内で指定されているキリシタン墓碑は、基本的に 16 世紀後半から 17 世紀初頭のヨーロッパ墓碑形態の影響を受けたものが対象となっており、寛永 20 年銘墓碑はその基準に照らし「キリシタン墓碑」としての価値づけが困難であると判断されました。</p> <p>以上の理由から、今回の内容変更では、元和 7 年銘墓碑のみを県指定有形文化財として残し、指定員数を 2 基から 1 基に変更したいと考えております。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。</p>
質 疑	<p>(前川教育長)</p> <p>これより第 19 号議案について質疑・討論を行います。ご質問、ご意見等ございませんでしょうか。</p> <p>――― な し ―――</p>
採 決	<p>(前川教育長)</p> <p>それでは、質疑、討論をとどめて採決をいたします。</p> <p>第 19 号議案は原案のとおり可決することにご異議ございませんか。</p> <p>「異議なし」と呼ぶ者あり</p>
可 決	<p>(前川教育長)</p> <p>ありがとうございます。ご異議ないものと認めます。</p> <p>よって、第 19 号議案は原案のとおり可決することに決定されま</p>

報告事項（１）	<p>した。</p> <p>続いて、報告事項に入ります。報告事項（１）について説明をお願いします。</p> <p>（井手教育政策課長）</p> <p>冊子１の１０ページ、報告事項（１）をご覧ください。学校指定型のふるさと納税制度の開始についてご報告いたします。</p> <p>１の募集開始日をご覧ください。令和７年６月定例教育委員会において制度創設についてご説明した「学校指定型のふるさと納税制度」ですが、関係部局や業者との調整が整い、１０月２９日から制度を開始いたしました。</p> <p>２の寄附の活用内容をご覧ください。寄附の募集対象は、現在予算措置を講じている事業としており、令和７年１２月末までに集まった寄附金については、令和８年度の当初予算への反映を想定しております。また、寄附金の金額が学校の目標額に達しない場合は、繰越も考えております。なお、寄附後に長年活用されない事態を防ぐため、寄附金は３年以内に活用することといたしました。活用内容の例としては、部活動に関する費用、学校環境の整備、特色ある教育活動に要する経費など、学校ごとに多様な内容となっております。</p> <p>３の実施方法をご覧ください。寄附の募集は、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」を活用いたします。また、次のページに別紙として添付しておりますが、学校ごとに寄附の活用内容等を記載したチラシを作成し、こちらを県のホームページに掲載しているところです。</p> <p>最後に４の周知方法をご覧ください。本制度の周知にあたっては、広く情報を届けることが重要だと考えております。学校においては、同窓会、ＰＴＡ、地域住民等への周知をお願いするとともに、県としては県公式ウェブサイトや県人会等を通じた周知を図ってまいります。以上で説明を終わります。</p>
質 疑	<p>（前川教育長）</p> <p>ただ今の報告に対するご質問・ご意見等はございませんでしょうか。</p> <p>（芹野委員）</p> <p>これは新しく始める制度という理解でよろしいでしょうか。それと、この制度を始めるにあたって必要な経費とか予算とかなどはあるのでしょうか。</p> <p>（井手教育政策課長）</p> <p>ふるさと納税制度自体は、ご承知のとおり長崎県も進めているところでして、その制度の一環といたしまして、学校を指定してふる</p>



<p>報告事項（２）</p>	<p>さと納税をしていただくということは本県では今回初めて行うこと でございます。なお、他県では行われている事例もございます。</p> <p>予算につきましては、ホームページもすでに県が使っているもの 等を使っておりますので、特に必要な予算措置というものはござい ません。</p> <p>（前川教育長） 他にいかがでしょうか。</p> <p>――― な し ―――</p> <p>（前川教育長） よろしいでしょうか。その他特にないようでしたら、続きまして 報告事項（２）について説明をお願いします。</p> <p>（田代高校教育課企画監） 冊子１の１２ページをお開きください。報告事項（２）「ながさ き次世代高校創生会議（第１回）」についてご説明を申し上げます。</p> <p>少子化による生徒数の減少、急速な社会変化に的確に対応し、１ ０年後、１５年後を見据えた持続可能で魅力ある高校教育の構築に 向けた議論を深める場として、外部有識者などで構成されるながさ き次世代高校創生会議を設置いたしまして、１０月１４日に第１回 目の会議を開催いたしました。</p> <p>会議名称には新たな学びを生み出すという意味を込めておりまし て、４番になりますが、委員構成は公募委員を含む１７名で、大学 の先生、民間の教育事業者、シンクタンク、金融機関、市町の教育 委員会教育長、中学校高校のＰＴＡ及び学校長などの代表者で構成 しております。</p> <p>１３ページの５番の議事概要をご覧ください。当日、まず事務局 の方から、県立高校の現状、現在取り組んでいる学びのあり方につ いて、また、中学生、高校生、保護者を対象とした、県立高校に対 するニーズ調査の分析結果についてご説明いたしました。そのあと 同会議に対しまして、生徒がみずからの可能性を発揮し、社会の変 化に主体的に対応する力を育むことができる魅力ある県立高校につ いて、具体的な方策を議論するための、３つの項目について検討を 依頼しております。中段くらいに、（１）（２）（３）と書いてあ るところでございます。</p> <p>１つ目が、すべての生徒が「自己の在り方・生き方」を主体的に 考え、多様な学びと社会参画を実現できる高校のあり方についてで す。これからの教育は生徒自身がどう生きたいかを考え、主体的に 学び続ける力を育むことも求められております。人生の選択肢が多 様化する中で、従来の枠にとらわれない新しい高校の姿について、</p>
----------------	---

<p>質 疑</p>	<p>自由な発想でご検討をお願いしているところでございます。</p> <p>2点目です。社会や地域の期待に応える特色ある再編整備の方向性についてです。教育の質を保つためには、学校規模の適正化や地域との連携が重要でございます。地域の特色を活かした学校づくりや、地域の未来を担う高校の在り方について幅広い視点からご検討をお願いしているところです。</p> <p>3点目です。特色ある教育活動を可能にする教育環境整備の在り方についてです。再編整備を伴う施設整備や通学支援など、柔軟で実効性のある環境づくりが求められると思っております。また、地域と協働した学びの場や企業との連携など、教育機会の確保に向けた支援体制についてもご検討をお願いしたところです。</p> <p>次に、6番の協議における主な意見でございます。各委員からは、県立高校の再編や今後の教育の在り方について、幅広い視点からご意見をいただきました。主なご意見を申し上げます。</p> <p>まず高校再編におきましては、目的や意義を明確にすることが重要であって、多様性への対応や共通性の確保といった視点を踏まえるべきとのご指摘もございました。また、不登校生徒の支援、理系人材の育成、少子化に対応した専門学科の統合なども論点として挙げられております。加えて、離島と都市部をつなぐ学びの仕組みの構築、主体的な思考力を育む授業の展開や、教員、産業界、行政が連携した教育支援体制の整備についてもご意見がございました。さらに、学校が地域コミュニティの中心であることを踏まえた役割の再認識、居住地に関係なく、教育機会を確保するための環境整備など、多岐にわたるご提案があったところでございます。</p> <p>15ページ目をお願いいたします。7番、今後の予定でございますが、今年度中にこの会議としての大綱案の内容をまとめていただきまして、その検討結果を踏まえて、令和8年6月を目途に県立高校の再編整備の基本的な考え方として、大綱を策定いたしまして、県民の皆様にお示ししたいと考えているところでございます。以上で説明を終わります。</p> <p>(前川教育長)</p> <p>ただ今の報告に対するご質問・ご意見等はございませんでしょうか。</p> <p>(本田委員)</p> <p>アンケート結果の概要のまとめをどのようにされたか教えてください。</p> <p>(田代高校教育課企画監)</p> <p>資料3のアンケート結果をご覧ください。様々な問いが15問ほどございまして、高校生、中学生、保護者、地域ごとに分析をしたものになります。主なところを申し上げてよろしいでしょうか。</p>
------------	--

まず、11ページをご覧ください。高校を選ぶ際に重視する点は何ですかという質問になります。一番多かった回答が「希望する学科・コースがある」、そのあとが「将来就きたい仕事と関連している」、「学校の進路実績」が4番手にあります。ですから、学びというところに直接行っている部分はあるのですが、一方で、3番目に「学校の雰囲気」という高校入学後の生活そのものを重視するという意見も伺えたところでございます。

それから16ページをお開きいただいてもよろしいでしょうか。こちらは「あなたが考える魅力ある高校や学びについて教えてください」という問いに対して、選択肢で回答するものになります。一番多かった回答が、「一人一人の個性に合った教育を重視している」ということで、個別最適な学びを重視しているというところに重きを置いているということになっております。そのあとに「探究的な学びが充実している」とか、「時代に合った実践的な職業教育を重視している」というようなところも重視しているという結果でした。主だったところで言いますと、この2点が一番大きなところかと思っております。こういったところを踏まえまして、今後の高校の在り方、学びの在り方について、委員の皆様にご議論いただいて、その方針を取りまとめていきたいと考えているところでございます。

(前川教育長)

他にいかがでしょうか。

(芹野委員)

この会議は学校の再編等々に繋がっていく話をされているかと思いますので、いただいた会議の説明資料などを拝見すると、全体の学生の人数がこれから減っていく中で、それに乗じたことになるかと思いますが、それぞれの学校、普通科であったり専門学科があったり、そういうものボリューム感みたいなものを地域ごとにとらえながら進めていただきたいという気がいたします。長崎県は割と都市部、半島部、離島部と3つに分けるパターンが多いような気がしますけど、それぞれの地域にとっては市町村単位で考えられるようなので、そういった3つの部門だけにかかわらず、もう少し細かい分類の中で、生徒の数であったりボリューム感であったり、どんな学科がその地域に必要なのかというところまでも見据えながら進めていただきたいなと感じました。

(田代高校教育課企画監)

今後の15年間のボリューム感については、やはり市町ごとに考えていきたいなと思っております。地域でどんな学びが必要なのかということについても、地域の方々にお話を伺いながら、例えば離島部では今水産を学ぶ場所がないのですけれども、そういったもの

が必要だというお話があれば、中学生のニーズも踏まえたところで、そういった新たな学びを展開していくべきかなというふうにも考えてるところでございます。

(芹野委員)

義務教育の部分と高校教育の部分では、大分受け持つ単位が違うかと思うので、雑談の中でも義務教育の部分は市町村の方で大分決定権があるような話をしてますけど、やはり子どもたちにとっては小中高と一貫した流れの中にあるので、それを県の教育庁として全体像をしっかりと把握しながら進めるということは、重要なことではないのかなと思うので、その辺りはしっかりと進めていただければと思います。

(前川教育長)

他にいかがでしょうか。

(本田委員)

14ページにコーディネーターの存在が出てくるのですが、例えば産業界とのつなぎ役とか、市町との連携するコーディネーターの役割であるとか、現実には松浦高校の地域科学科の中には現在のコーディネーターがいらっしゃるのだろーと思います。例えば、先ほどおっしゃったような産業界を結ぶようなコーディネーター、要は専門高校、あるいは普通科の学校、あるいは普通科でもそういう専門的なものを含んだところなど、そういうところになるとそれぞれ目的・目標が変わってくるので、そこに応じたコーディネーターを入れていく、そういう存在が必要だというご意見と考えていいですか。

(田代高校教育課企画監)

ここでの委員さんのご発言があった探究的な学びを深めていくためには、やはり地域と企業と学校をつなぐコーディネーターが必要だということですので、本田委員がおっしゃる松浦のコーディネーターのような形になります。

(前川教育長)

他にいかがでしょうか。

――― な し ―――

(前川教育長)

よろしいでしょうか。その他特にないようでしたら、続きまして報告事項(3)について説明をお願いします。

<p>報告事項（３）</p>	<p>（岩尾学芸文化課長）</p> <p>冊子１の１６ページをご覧ください。第２１回長崎県高等学校総合文化祭及び第２０回長崎県中学校総合文化祭についてご報告します。</p> <p>今週、１１月７日から９日まで、アルカス佐世保を中心に「第２１回長崎県高等学校総合文化祭」を開催します。芸術や文化に情熱を注ぐ高校生が、自ら企画・運営し、造り上げる大会となっております。今大会のテーマは『手紙』で「誰かと繋がり、想いを共有したい。手紙を送り合うように、温かい想いを持って人とつながっていきたい。」というメッセージが込められております。７日の総合開会式では、合唱や吹奏楽などのステージ発表のほか、美術、書道、生け花などの展示や呈茶のおもてなしを行うこととしております。そのほか、期間中は、日本音楽や将棋などの大会が県内各地で開催される予定となっております。</p> <p>また、１１月１９日、２０日には長与町民文化ホールにおいて、「第２０回長崎県中学校総合文化祭西彼・西海大会」を開催します。「いっちょやるばい OURSELVES」の大会テーマのもと、吹奏楽や合唱、演劇などの舞台発表と国語、美術、理科、特別支援学校の作品の展示発表の部門で若々しい発想力と日頃の研さんの成果を披露します。報告は以上になります。</p>
<p>質 疑</p>	<p>（前川教育長）</p> <p>ただ今の報告に対するご質問・ご意見等はございませんでしょうか。</p> <p>———— な し ————</p> <p>（前川教育長）</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、ご意見等なければ以上で報告事項を終了します。</p> <p>次の議案審議から非公開で行いますので、傍聴人の方及び報道関係者の方は恐れ入りますが退席をお願いいたします。</p>
<p>冊 子 2 議 題</p>	<p>（別紙議事録）</p>
<p>冊 子 3 議 題</p>	<p>（別紙議事録）</p>
<p>冊 子 4 議 題</p>	<p>（別紙議事録）</p> <p>１５時４５分、本日の会議を終了</p>